「りゅうま伝」は高野の分身がお客様のところへご挨拶に伺うという氣持ちでお届けしています。

りゅうま伝

3号
2020年2月27日
高野竜馬

「コピー7割の法則」

"もっとTTPせんか！字が小さくて読む氣がせん！"

前号を出した時、こんなクレームを頂きました。しかも手書きニュースレターの元祖「とっとーと通信」をワザワザ添付して頂いて。（笑）TTPとは「徹底的にパクる」の略。

お氣付きの方も多いとは思いますが、実はこの手書きニュースレター、畏敬する平川社長の「とっとーと通信」のパクリです。

ただ、初めて「とっとーと通信」を見たとき、正直なところ「こりゃダメだ」と思いました。「手書きなんて誰も読まないよ。」と。

前職時代からワープロでキレイなニュースレターを作っていた私はそう思いました。ところがこれまで2回手書きしてみて分かったことはダメなのは私の方だということです。それほど手書きの反響は大きなものでした。

ただ一口にコピーといっても、これが案外難しいのです。例えばボールペン一つとっても私のだとどうしても上手く書けないので平川社長に聞いてみたところ0.38ミリの細字ペンを使っていらっしゃるとのこと。

こんな感じで物事をコピーするのは難しいもので、ちょっとした誤差が醸し出す雰囲氣を変えていることを実感します。

コピー7割の法則を提唱している私の師匠も次のように書いています。

「コピーはオリジナルを超えられない。これは認めます。でも、完全なコピーならオリジナルの成績の70%はいける。これは私の経験則上、間違いありません。」

冒頭のご批判どおり「完全コピー」がポイントです。どう書くかだけでなく、平川社長の視点まで盗めるよう努力致します。

以下、「とっとーと通信」でも紹介された有名なコラムをそのまま転記、ご紹介させて頂きます。

「ごめんね。野球」

幼い頃に父が亡くなり母は再婚もせずに俺を育ててくれた。学もなく、技術もなかった母は個人商店の手伝いみたいな仕事で生計を立てていた。それでも当時住んでいた土地はまだ人情が残っていたので、何とか母子二人で質素に暮らしていけた。

娯楽をする余裕なんてなく、日曜日は母の手作りの弁当を持って近所の河原とかに遊びに行っていた。給料をもらった次の日曜日にはクリームパンとコーラを買ってくれた。

ある日、母が勤め先からプロ野球のチケットを2枚もらってきた。俺は生まれて初めてのプロ野球観戦に興奮し、母はいつもより少しだけ豪華な弁当を作ってくれた。

野球場に着き、チケットを見せて入ろうとすると、係員に止められた。母がもらったのは招待券ではなく優待券だった。チケット売場で一人千円ずつ払ってチケットを買わなければいけないと言われ、帰りの電車賃くらいしか持っていなかった俺達は外のベンチで弁当を食べて帰った。

電車の中で無言の母に「楽しかったよ」と言ったら、母は「母ちゃんバカでごめんね」と言って涙を少しこぼした。

俺は母につらい思いをさせた貧乏と無学がとことん嫌になって一生懸命に勉強した。

新聞奨学生として大学まで進み、いっぱしの社会人になった。結婚もして、母に孫を見せてやることもできた。

そんな母が去年の暮れに亡くなった。死ぬ前に一度だけ目を覚まし、思い出したように「野球ごめんね」と言った。

俺は「楽しかったよ」と言おうとしたが、最後まで声にならなかった。

たかの財形事務所
〒819-0374 福岡市西区千里707-13
090-3407-2123
https://www.takanozaikei.com メール fp.takano@gmail.com

「りゅうま伝」の題字は娘（9歳）が書いてくれました。親子共々成長して参ります！